

# 未来

郵政産業ユニオン  
**PIWD**

全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙「みらい」  
NO. 4477  
24年9月3日(火)  
Tel・Fax 095-828-1953  
文責 支部書記長

## 310万人の命と引きかえの民主主義を大切に

おはようございます。  
八月二十八日の朝日新聞  
投書欄に、長崎出身で東  
京の大学生の『長崎生ま  
れの八月九日の願い』が  
載った。短く言うと、八  
月九日に福島でポランテ  
イアをしているとき、十  
一分二秒を迎え、役所が

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員、期間雇用社員の希望者全員を正社員化する。めげず、均等待遇、なぐさみ差別！ ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ！

追悼のサイレンを鳴らした  
たので、彼は黙とうをし  
たが、周りは気づかない  
ままだった。・・・私はこ  
の日を長崎原爆投下の日  
として知らせたい。これ  
こそ長崎に生まれ、平和  
教育を受けたものとして  
の使命である」という明  
るい文であった。



長崎市民には当たり前  
である反核・平和も、あ  
るいは八月九日の原爆投  
下の日の黙とうも、全国  
では通らない。

これは私も体験したし、  
それだけに私の子や孫に  
「君たちは被爆二世、三  
世、四世であるから八月  
九日は黙とうし、核廃絶  
に努力してほしい」と、

今年もLINEでお願い  
した。  
こうした長い文を家族  
LINEで流される子供  
や孫たちも迷惑顔だが、  
気持ちは伝わっていると  
思う。

これは今年の九日の長  
崎市平和式典にも表れ  
た。鈴木史朗長崎市長が、  
「式典の平穩開催のため  
イスラエルを招待しな  
い」と記者会見で述べる  
と、欧米のEUとG

7が大使派遣を見  
送り、抗議のボイコ  
ットをした。理由は  
「ガザ侵攻はイス  
ラエルの自衛権で  
ある」というもので  
あった。

そして二七日、鈴木市長  
はこの件で四千通のメー  
ルや電話があったとして、  
うち過半数は国内からで、  
多数が「長崎市を支持す  
る」というものであった  
という。当然とはいえ、  
良かったと思う。

ただ外国からのものは  
長崎市を批判するものが  
多かったともいう。「式典  
の平穩開催」という理由  
は、被爆者追悼では当た

り前である。これに怒る  
人はいない。長崎市長の  
態度は世界的にはおかし  
いのか。

ただイスラエルのボイ  
コットという式典の開催  
は、極めて政治的な課題  
となった。それはイスラ  
エルの大義自衛権の論  
理を認めない長崎となっ  
てしまったからだ。

これは鈴木市長の思惑  
を飛び越え、被爆者運動  
や核廃絶運動の広がりを、



八月九日の被爆七九年目  
の平和式典が生んだ、出  
来事となる。

原爆は太平洋戦争が生  
んだものだ。一九四五(昭  
和二〇)年七月一六日に  
アメリカが原爆実験に成  
功し、うち二個を日本投  
下と決め、七月二五日に  
投下命令がでる。そして  
八月六日に広島、同じく  
九日に長崎へ落とされる。

投下命令から投下まで  
二〇日間があり、連合国  
軍は日本へ無条件降伏を  
求めて、ポツダム宣言を  
出すが、日本はこれを無  
視し、原爆投下の結果、  
八月一四日の「御前会議  
でポツダム宣言受諾」を  
決め、一五日に天皇の「終  
結宣言」で、戦闘が終わ  
る。

そして九月二日に東京  
湾上でのアメリカ軍艦・  
ミズリー号上での  
無条件降伏文  
書調印で戦争は  
終わる。事実、同  
日にGHQ(連合  
軍)の日本の軍隊  
解体命令で、よう  
やく長い戦争が  
終わる。日中戦争  
の開始から二〇年以上の  
戦争という暗い歴史が、  
終わったのだ。

日本人はこの戦争で何  
を得たのだろうか。三百  
十万人が殺され、衣食住  
のすべてを失った苦難の  
戦後だったが、しかし日  
本国と日本人は、以降七  
九年、戦争で人を殺すこ  
となく生きてきた。これ  
は日本史上稀である。

その原点が、日本の民  
主化であり、それを具体  
化した平和国憲法である。  
このことを文部省は何  
度も本を出し、国民へ教  
えている。最初が一九四  
八年に出て、一九五三年  
まで中学校の教科書で使  
われた「民主主義の教科  
書」であった。



最近では二〇一八(平  
成三〇)年の「民主主義  
(角川文庫)がある。「文  
部省が書いたものとして  
は、いい」と解説のなか  
で内田樹が書いているが、  
民主主義の政治の中で、  
独裁主義とならないよう、  
今を勉強することが、日  
本人に求められているの  
ではないか。いちど手に  
取られてはどうだろうか。  
なにせ、三百十万人の戦  
死者の尊い命と引き換え  
の民主主義なのだからだ。  
大切にしたい。  
※8月30日(金)の  
「未来」は台風10号に  
よる業務停止のため休刊  
としました。

